

ソニーネットワークコミュニケーションズが大規模な仮想化基盤を効果的にバックアップ

So-netとして知られる個人向けISPインフラのバックアップ環境を刷新
運用の負荷とコストを大幅に削減し、将来的な運用高度化の基礎を構築

SONY

従来環境の課題

- コピー データ管理ツールではバックアップ/リカバリ運用の負荷が大きい
- データ容量課金のため、バックアップ可能なデータ容量に制限がある
- 2,000台の仮想マシンのバックアップに1週間かかっている

解決策

- Commvaultでバックアップ対象とする仮想マシンの自動検出、登録、削除が可能になり、バックアップ運用の負荷を大きく軽減。操作ミスなどにはファイル単位で迅速にリストア
- ソケット単位ライセンスの導入で、データ容量を気にすることなくすべてのデータをバックアップ対象とすることが可能に
- 高速なバックアップ パフォーマンスで、週次バックアップ運用が可能に。4世代、1ヶ月分を保持。週末に差分合成フルバックアップを実行

効果

- バックアップ自動運用で、毎日のバックアップ管理コンソールのチェックが不要に
- 86%の重複排除率でバックアップ データ容量を1/5に削減
- 高速なバックアップ パフォーマンスで、バックアップ 時間を1/3に短縮し、バックアップ ウィンドウ不足の不安を解消
- ライセンス費用を大幅に削減。また、ソケット単位ライセンスの導入で、将来的なライセンス不足に対する不安も解消
- 投資を無駄にすることなく、従来のシステムで使用していたストレージをそのまま再利用

業界

ISP、通信

所在地

東京都品川区東品川

WEBサイト

www.sonymetwork.co.jp

お客様の概要

ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社

- 従業員数 866名 (2018年3月31日現在単独)

バックアップ環境

- Commvault 仮想マシン ソケット単位ライセンス - サブスクリプション
- VMwareサーバー 100台の上で、仮想マシン 2,000台が稼動
- バックアップ対象データ容量 400TB
- HPE 3PAR StoreServストレージ

86%

重複排除率 86%で、400TB の仮想マシン データを、約 80TB のバックアップ データとして保持することができるようになりました。



「Commvault は、仮想マシンを自動的に検出しバックアップしてくれます。また、削除された仮想マシンも自動的にバックアップ対象から削除してくれるので、毎日のように管理コンソールをチェックする必要がなくなりました。バックアップの自動運用が可能になったことで、運用負荷を大幅に軽減でき、安心して他の業務に集中できるようになりました」

ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
システム技術部門 ITプラットフォーム部
インフラオペレーション課 清山 遼平 氏

中核事業の仮想化基盤を支えるバックアップを刷新

ソニーネットワークコミュニケーションズは、インターネット サービス プロバイダーとして1995年に設立され、「So-net (ソネット)」の名や「PostPet™」のキャラクターなどで親しまれてきました。最近では個人向けから法人向けまで、幅広い通信サービスを提供しており、IoTのような先進技術にも積極的に取り組んでいます。

同社の中核たるISP事業は、様々なサービスのベースでもあり、着実に運用することが求められています。安定的かつ堅牢で確実なサービスを、低コストで提供することがミッションの1つです。特に個人向けのISPサービスは、会員情報、メールデータ、問い合わせ情報、システムログなど、さまざまなデータを扱っています。中でも課金情報、顧客アンケート、システムログ、開発/運用データなどの情報は、2,000台ものVMware仮想マシンに保管され、サービスを担っています。災害やサイバー攻撃はもちろん、軽微なトラブルであっても迅速に復旧できるバックアップ&リストアの仕組みが重要です。

もともと同社では、いわゆるコピー データ管理ツールをバックアップに流用していました。システムを含めたデータを複製できるという点では有効でしたが、特にバックアップ/リカバリ運用という点では操作性に問題があり、たとえば、仮想マシンが増減するたびに設定を変更したり、一部のファイルを復旧するために仮想マシンごと復元したりと、リストア作業も手間がかかっていました。

バックアップ要件を見直しCommvaultを選択

ソニーネットワークコミュニケーションズは、バックアップとリカバリのしやすさを最重要課題とし、バックアップ専用ツールへの転換を図りました。そして、下記の点を評価してCommvaultを選択しました。

- 操作性 – 最も重要視したのは、操作性でした。ソニーネットワークコミュニケーションズでは以前よりリストアする速度が求められており、いざというときにリストア要求に応えることができるよう、直感的に使えるか、動きの軽快さはどうかといった点は特に重要でした。
- 自動バックアップ運用 – ソニーネットワークコミュニケーションズでは毎年仮想マシンが数百台増え、数百台減ります。トータル数はあまり変わりませんが、増減の頻度が問題で、以前は毎日バックアップ対象マシンの追加と削除を手動で行っていました。Commvaultは仮想マシン数が増減しても、自動でバックアップ対象マシンを追加/削除できるので、毎日運用状況をチェックする必要がなくなりました。
- リーズナブルなライセンス体系 – ソニーネットワークコミュニケーションズでは仮想マシンのデータ量は年々増え続けますが、仮想マシンの合計台数の急激な変化はないため、ソケット単位ライセンスであれば、ライセンス不足になることはありません。以前の容量単位ライセンスから、ソケット単位ライセンスへの変更で、ライセンス費用を大幅に削減し、データ量増加に伴うライセンス不足の心配も解消しました。
- 短期間での導入を可能にするCommvaultのプロフェッショナル サービス – 従来のシステムの保守更新のタイミングが迫っており、ソニーネットワークコミュニケーションズはその保守期限が切れる前に新システムを稼働開始する必要がありました。以前のシステムは、導入から最初のフルバックアップが完了するまで数ヶ月掛かりましたが、Commvaultはプロフェッショナル サービスを提供しており、これを利用することで数日で構築作業が完了しました。1週間後には最初のフルバックアップも完了しました。

システム環境が変化しても変わらないバックアップ運用

今後、ソニーネットワークコミュニケーションズでは、Commvaultのマルチテナント機能を活用し、各事業部門が自分のチームの要件に合わせて、セルフサービスでバックアップ&リストアを実施できるよう権限を委譲することを計画しています。また、パブリック クラウドの利用や、物理環境のバックアップ統合など、Commvaultを会社全体のバックアップ ツールとして活用することを検討しています。この時大切なのは、オンプレでもクラウドでも、仮想環境でも物理環境でも、バックアップ運用が変わらないことです — このCommvaultの最大のメリットを効果的に活用していきたいとしています。

